

オバマ大統領、B.B.キングとブルース『スイート・ホーム・シカゴ』を歌う
あのトロンボーン・ショーティーも招かれ熱演
ホワイトハウスからのサプライズ・ショットに外山夫妻も「やった〜っ！」



この写真を見て、外山夫妻は、思わず大声を上げ

が、なんと、なんと！ かつてWJFからトロンボーンを

た。この写真(ホワイトハウス撮影)は、昨年2月21日、ホワイトハウスのイースト・ルームで開催された「Blues from The White House」での一コマ。コンサートも終わりに近づいて、出演者全員がステージに出てアンサンブルに入った。バラク・オバマ大統領がやおら立ち上がると、ブルースの巨匠、B.B.キング(上の写真の右手前)がさっとマイクを差し出す。なんと大統領はこれを受け取って、ブルースを歌いだした。それもそのはず流れた曲は、オバマさんの出身地シカゴにちなんだ『スイート・ホーム・シカゴ』だった。

そのことよりも何より、外山夫妻を驚かせたのは、写真中央でトロンボーンをもって微笑んでいる青年



贈ったこともあり、以来、少なからぬ縁で結ばれている、あのトロンボーン・ショーティーだったからだ。

PBSのYouTubeにも、はっきりと映し出されているように、トロンボーン・ショーティーは客席の後ろからトロンボーンを吹きながら現れて、ステージに上り、歌も交えて『セント・ジェームズ病院』を演奏した。外山さんと同じように♪ハイデ・ハイデ・ハイデ・ホー…と歌い、大統領夫妻も唱和しているところが、はっきりとらえられている。(左の3枚の写真=PBSのYouTube映像から)

ネットなどの報道によると、彼はブルースをたたえるこのホワイトハウスのイベントに出演、B. B. キング、ミック・ジャガー、ジェフ・ベック、バディ・ガイ、

ゲイリー・クラーク・ジュニア、ケブ・モラ大スターに混じって出演していた。

彼は、サッチモの銅像が建つニューオリンズのルイ・アームストロング公園(かつては奴隷たちが集い、民族音楽に興じたコンゴ広場)、その裏手のトレメ地区と呼ばれる犯罪も多い地域の出身。夫妻と行く「サッチモの旅」でも毎年、みなさんと「ジャズ・ミサ」で訪れているセント・オーガスチン教会もこの地区にある。

彼は1989年、3歳でお兄さんのジェイムス(トランペッターで、今もゲッターのサッチモと呼ばれて活躍中)についてきて、バーボンストリートでチップを集めていた。たまたま通りかかった外山さんが撮ったのが**右の2枚**



ルイ・アームストロング公園のサッチモの銅像前で外山さんと演奏するトロンボーン・ショーティー(左端)。右端はコロンビアの名プロデューサーだったジョージ・アヴァキアンさん=2003年撮影



の写真。これでもお分かりのように、トロンボーンの方が彼より背が高いため、“ショーティー”と呼ばれた。後になって、この子が“ちびっ子ショーティー”だったのだと判明した。本名はトロイ・アンドルース。ステージネームとして、いまも“トロンボーン・ショーティー”を名乗っている。

2001年、まだ中学生で、すでに天才的才能を持ったミ

ュージシャンに成長していたショーティーに外山夫妻は再会する。その際、彼は夫妻がニューオリンズに楽器を贈っていることを知っていて「ヤマハの GOOD トロンボーンがほしいんです」と懇願した。夫妻は帰国後、当時日本楽器勤務だった早大ニューオリ OB の東条一幸さんをお願いして、神田の下倉楽器、井能裕晃部長を紹介してもらった。お世話いただいた楽器は YAMAHA トロンボーン YSL455G 。間もなく、日本通運に託して送っていただいた楽器を手に、目を輝かせるショーティーの写真が送られてきた。

その半年後、ジャズツアーで渡米した夫妻は、高校生になってニューオリンズのアートスクール「NOCCA」(New Orleans Center for Creative Arts=ニューオリンズ・センター・フォー・クリエイティブ・アーツ)に通い始めたショー

ティーにトランペット2本もプレゼントしている。彼は、トランペットも超一流！ このトランペットのうち1点は、セインツのトロンボーン奏者、粉川忠範さんのお知り合いの和尚さんからいただいたポケット・トランペットだった。

そのショーティーが、今27歳(1986年1月2日生まれ)、全米の注目を集めるスターとなって、大統領の前で“御前演奏”をしたのだから夫妻が驚いたのも不思議ではない。



写真上は、トロンボーン・ショーティー(左から2人目)に粉川さん(左端)の知人から贈られたトランペット他を手渡す外山夫妻(右)=2001年9月。右は、まだ中学生だった彼にトロンボーンを進呈。ケースにはWJFのロゴが…=2001年



Troy Andrews (born January 2, 1986), also known by the stage name **Trombone Shorty** is a trombone and trumpet player from New Orleans, Louisiana, United States. He has worked in jazz, funk and rap music. Andrews is the younger brother of trumpeter and bandleader James Andrews as well as the grandson of singer and songwriter Jessie Hill. Andrews began playing trombone at age six, and since 2009 has toured with his own band, Trombone Shorty & Orleans Avenue.([Wikipedia](#) から)

音楽、芸術など文化教育にも力を入れるバラク・オバマ大統領 「私はジャズで育った」—ミシェル夫人もジャズを大絶賛 「ジャズはアメリカが世界にプレゼントした素晴らしい贈り物」

2009年1月、アフリカ系アメリカ人として初めて米大統領に就任したバラク・オバマ氏は、音楽や芸術など文化教育にも力を入れている。就任から半年後の6月15日、ホワイトハウスのイースト・ルームにジャズを学ぶ青少年たちを招いたコンサート、ミュージック・シリーズ「ジャズ・スタジオ」がミシェル・オバマ夫人(大統領芸術人文委員会の名誉会長)の主催で開催されている。ミシェル夫人が熱心にこのプログラムを支えていることは、この日の次のような彼女の挨拶にも象徴される。

(画像は、その模様を伝えるホワイトハウスHPの映像から)

ジャズは民主主義の最高のお手本！

「アフリカ系アメリカ人によってニューオーリンズで100年前に生まれたジャズは今日、すべての民族、年齢、宗教を超えて演奏され、聴かれています。アメリカの生んだ音楽として世界中で認められているのです。ジャズは、アメリカが世界にプレゼントした素晴らしい芸術的な贈り物として認められています。ジャズを理解し、ジャズに感謝することは、アメリカの歴史と文化を理解し、正しく評価するために欠くことができないことです。それはまた同様に、個々の表現、民主的な表現としても、優れたモデルでもあります。

そして、グループの中で演奏者それぞれが責任を果たしながら、個々が自由に表現をしていくというジャズのアンサンブル…それよりも、より優れた民主主義の実例などはおそらくないでしょう。アメリカ中のすべての学校で、このジャズ教育プログラムの重要性を認め、高めていくことで、私達の次代を担う世代のために、私達がこの芸術的な形態を保存し、発展させ、広めていくことはとても重要なことなのです。

各地から今日ここにいらした新進の若いジャズ・ミュージシャン、あなた方の若い才能は、この音楽の次代を担う世

代なのです。私達はあなた方、そしてあなた方の先生たちに敬意を表します。私達は、来るべき世代のために、あなた

の方がこの音楽を生き生きと保ち、発展させていくことに期待しています。

そして、ジャズは、100年以上の間、毎晩のような実演されてきていますので、私達が一緒にやっていく限り、私達に不可能なことなどありません。

ジャズは、まだ私が小さい女の子だったときからずっと私の生活の一部だったのです。私達が「シカゴのサウス・サイド(South Side)の人」とよんでいる母の父親は、彼の家のなかのすべての部屋にスピーカーをつけて、一日中ジャズをかけていたのです。それもできる限り最大限の音量で、です。私はそんな家庭で育ちました。クリスマスであろうと、誕生日、イースターであろうと、お構いなしでした。私の家庭では、いつもジャズが流れて

いました。そんなこともあって、その音楽をここ、ホワイトハウスに持って来て、皆さんと一緒にそれを祝福することが出来たという訳です」(要旨)

このミュージック・シリーズは、2009年のジャズに始まり、カントリー、クラシック、ラテンと続けられてきた。

